

彙 報

第 4 回委員会

日 時：昭和 48 年 9 月 18 日（火）

場 所：学士会館 本郷分館

出席者：（ ）内は委任状受託数

池上二良，大束百合子，岸本通夫（1），北村 甫（7），江 実，
佐藤則之，柴田 武（3），徳川宗賢，服部四郎，前田護郎，

（白紙委任 3 名）[委員総数 40 名]；井上史雄（幹事），樋口時弘（幹事）

議 事：1) 第 3 回委員会議事録確認。

2) 第 68 回言語学会大会の会場・日程について報告があった。

3) シンポジウム「日本語の起源」の講師として，泉井久之助，江上
波夫，大野 晋，大林太良，崎山 理，村山七郎の各氏の受諾を
得た旨報告があった。司会は岸本通夫氏に委嘱することとなった。

4) その他大会関係の細目について協議した。

5) 嘱託の待遇等の変更について委員長から説明があり，了解が得ら
れた。

6) 制度検討のための小委員会設置について協議が行なわれ，とりあ
えず大束百合子，江 実，佐藤則之，徳川宗賢，服部四郎の各
氏のほか，柴田委員長をメンバーとして 9 月 29 日（土）に初会
合を開くこととなった。なお小委員会は公開のものとする。

第 68 回日本言語学会大会

上智大学において，昭和 48 年 10 月 20 日シンポジウム，21 日研究発表を開催。

1. シンポジウム

日本語の起源 泉井久之助，江上 波夫，大野 晋，大林 太良，
崎山 理，村山 七郎，（司会）岸本 通夫

2. 研究発表

津軽方言の複合名詞のアクセント	小林 泰秀
言語修得初期における難易度の問題 —— /p/, /t/, /k/ について ——	国広 博子
発話に先行する条件	平川 信弘
文法的関係の記述についての一試案	小木野 一
—— アルタイ諸語, 高句麗語, 朝鮮語採用による ——	
日本語とウラル諸語の人体各部比較語彙	藤原 明
日朝共通基語比定のための対応型の選択について	長田 夏樹
ニューギニアの NAN 語について	江 実

なお、最後の研究発表は、都合により、閉会後に行なわれた。

第 5 回委員会

日 時：昭和 48 年 10 月 21 日（月）

場 所：上智会館

出席者：（ ）内は委任状受託数

池上二良、泉井久之助、今川太郎、大東百合子、大野 晋、岸本通夫、
北村 甫 (1)、日下部文夫、国弘哲弥、小泉 保、佐藤純一、
佐藤則之、柴田 武 (5)、田中利光、田村すゞ子、千野栄一 (1)、
徳川宗賢、堀井令以知、松田伊作、松本克己、三根谷徹、湯川恭敏、
(白紙委任 1) [委員総数 40 名]；井上史雄、樋口時弘、薮司郎 (幹事)

議 事：1) 第 4 回委員会議事録確認。

2) 制度検討のための小委員会の成立および活動状況について委員長から説明があった。

3) 昭和 47 年度会計報告が別表 (90 ページ) のように報告され承認された。なお会費の値上げが話題にのぼったが、今年度は見送ることになった。

4) 昭和 49 年度の大会の開催地について協議し、候補地が二、三あがった。

5) 今年度が作成期にあたる会員名簿を来年度に延ばすことが了承された。

- 6) 「言語研究」編集担当の藪司郎幹事の海外出張に伴い、臨時に担当者を依頼することが了承された。

第 6 回委員会

日 時：昭和 48 年 11 月 9 日（金）

場 所：学士会館本館

出席者：（ ）内は委任状受託者

梅田 博之，大東百合子，岸本 通夫，北村 甫 (1)，国広 哲弥，
佐藤 則之，柴田 武 (11)，田村すゞ子，徳川 宗賢，長谷川欣佑，
湯川 恭敏，（白紙委任 3）[委員総数 40 名]；井上 史雄（幹事）

- 議 事：1) 第 5 回委員会議事録を確認した。
- 2) 昭和 49 年度の大会会場予定校との交渉経過について報告があった。またシンポジウムを開くかどうかについて検討した。
- 3) 昭和 49 年度の科学研究費審査委員候補として第 1 段審査の委員に大竹敏雄氏，第 2 段審査の委員に岸本通夫氏を推薦することにした。
- 4) 幹事の海外出張により、「言語研究」の校正を臨時に外部に依頼することになった。
- 5) 第 68 回日本言語学会大会での研究発表について、「言語研究」65 号彙報においてどう取扱うかについて審議した。また、「研究発表等に関する内規」を取決め，今後，研究発表者にその都度あらかじめ「内規」を送ることになった。

昭和 47 年度会計報告

収 入		支 出	
前期繰越	1,381	刊行経費	1,025,504
会費(現金)	433,104	発送料	51,260
“(振替)	622,690	大会関係費	45,820
雑誌売上	150,213	通信費	56,911
補助金	130,000	事務用品費	12,610
利息	1,424	九学会連合会費	10,000
寄付金	0	C I P L 会費	27,160
		雑費	285,454
計	1,338,812	計	1,514,719
残高	-175,907		〈赤字〉

会費改訂のお願い

本学会の会費は従来年額2,000円でしたが、最近の印刷費・用紙代の値上がりにより、旧会費のままでは会の活動が困難な状態となりました。このため昭和49年2月9日の日本言語学会第7回委員会で審議の結果、昭和49年度分から会費を3,000円（海外会員 US \$14.00）に改訂せざるを得ないという結論になりました。何とぞ事情御賢察の上御了承下さるようお願い申し上げます。

会費の銀行振込について

会費の御納入には郵便振替と現金書留のほかに、このほど銀行振込も御利用頂けることになりました。口座は「富士銀行本郷支店、普通預金 No. 241056 日本言語学会」です。振込手数料（文書扱いの場合）は、都内および近郊の富士銀行本・支店からは振込額に関わらず無料、そのほかの銀行からは1万円未満の場合100円、1万円以上の場合150円です。

研究発表募集

昭和49年度の大会（第69回）は下記の要領で行なう予定です。

1. 日 時：昭和49年10月12日（土）・13日（日）
2. 場 所：大阪大学（大阪府豊中市）

研究発表会を行ないますので、研究発表御希望の方は下記御参照の上御応募下さい。

1. 発表は1名30分（時間厳守のこと、400字詰原稿用紙8～10枚程度）とし、10分間の質疑応答を加えます。
 2. 応募には800字ないし1,600字の要旨を8月31日（土）まで本会あてお送り下さい。（要旨は原則としてお返ししません。）
 3. 発表者および発表の順序は委員会で決定の上お知らせします。
- おな、次に掲げる「研究発表等に関する内規」を御参照下さい。

研究発表等に関する内規

(1973.11.9. 第6回委員会決定)

1. 研究発表者にはあらかじめ事務局から発表時間（開始時刻と質疑応答の終了時刻）の予定を知らせる。
2. 研究発表者は発表開始時刻の30分前までに会場受付に連絡する。連絡がない場合は発表を取り消したと見なすことがありうる。
3. 発表用の印刷物等を用意する場合には、すべて各自の負担によるものとし、事務局による配布を希望する場合は、当日の開会30分前までに会場受付に手渡すこととする。
4. 研究発表者が録音機・プロジェクター等を使用する場合は、発表決定通知が到着次第事務局に連絡する。
5. 公開講演者、シンポジウムの発表者等については、事務局が別途配慮する。

◇本誌は文部省昭和48年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。